



東京2020 がつなぐ 笠間とエチオピア

開幕まで半年を切った2020年東京オリンピック・パラリンピック。

笠間市は、エチオピア、タイ王国、台湾のホストタウンとしてさまざまな交流を進めています。その中から、今回はエチオピアとの交流事業をご紹介します。



ハーフ女子に
ゲストランナーとして出場した
イタレマウ・シンタイヨ選手



5kmに出場した
ガサ・カブラビウオット
駐日エチオピア大使



エチオピアから入賞者△
英雄アベベ・ビキラメモリアルメダルや
エチオピア特産のハラなどが贈られました



エチオピア駐日大使や選手に参加いただき
大会が盛り上がりました



ボランティアのみなさん、
ご協力ありがとうございました！



エチオピアの皆さんに笠間稲荷神社のお守りが贈られました



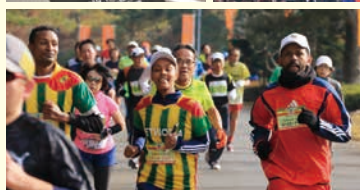
笠間特別観光大使の
NEVA(GIVE)UPがランナー
として会場を盛り上げました



「裸足のアベベ」の息子
イエイト・ナイエット・アベベさん



3kmに出場したゲテウミ選手(右)
オリンピックで3つのメダルを獲得



ハーフ男子で大会記録を更新した稲田さん



ハーフ女子は姉妹で1、2フィニッシュ！
妹の黒澤さん(右)が大会記録を更新しました

大会は、1964年東京オリンピックのマラソンで金メダルに輝いた「裸足のアベベ」ことアベベ・ビキラ選手を称えるメモリアル大会として開催され、ご子息イエット・ナイエット・アベベさんをはじめ、エチオピアから往年のオリンピックメダリスト・現役ランナー・政府関係者が、一般参加者4,338人とともに駆け抜けました。

ハーフマラソン男子の部に参加したエチオピア現役ランナーのアビヨット・アビネットさんは、ランナーとして参加された方はもちろん、沿道からの温かい声援、そして多くボランティアの方々のご支援、本当にありがとうございました。

エチオピアの英雄アベベ・ビキラメモリアル
第14回 かさま陶芸の里
ハーフマラソン大会

12月15日開催

大会前日に歓迎レセプションを開催

アベベ・ビキラを冠するメモリアル大会を記念して来市したエチオピア訪問団の歓迎レセプションが開かれました。

問団のみなさんが出席し、交流を深めました。また、エチオピア交流の一環で、陸上競技の技術を学ぶためエチオピアへ派遣された市内中学生3人も参加し、ツル会長からエチオピアナショナルチームのユニフォームが手渡されると、笑顔を見せ緊張が少しほぐれたようでした。



ナショナルチームユニフォームを、エチオピアへ派遣される中学生と指導者へプレゼント



エチオピア訪問団のみなさん



ヒルツ・カッセウ文化観光スポーツ大使



陸上競技連盟デラルツ・ツル会長



カサ・ガブラヒウォット駐日大使

私たち、エチオピアに行ってきました！ エチオピアへ中学生派遣

エチオピアとの交流の一環として、友部中学校の高山翔主希さん、後藤凜那さん、友部二中の助川颯都さんの3人が12月21日～28日の8日間、エチオピアに派遣され、エチオピア流の練習を体験しました。また、同時に指導者も2人派遣され、笠間市の陸上競技のレベルアップを狙うため指導方法を学んできました。



①ジュニア選手との合同練習(スポーツアカデミー)ノトップクラブチーム入りを目指す「エチオピア・ユース・スポーツ・アカデミー」の選手と合同練習。エチオピア独特のリズムドリルを初体験しました。



②クラブチーム練習ノ標高3,000mを越える森の中を走る高地トレーニング(左)未舗装の荒地でスピードトレーニング(右)



③友好駅伝大会ノアカデミーの選手と混合チームを結成。オリンピックメダリストをそろえたレジェンドチームと勝負！



④小学校体験入学ノ8年生(中学2年生)のクラスと一緒に授業を受け日本文化の紹介をしました。

3人の感想

高野 翔主希



「やつぱりエチオピアの選手は速い」それを一番感じました。また、エチオピアの文化など日本との違いも感じました。毎日のひとつひとつが良い経験となりました。今後の競技や生活に活かし、もっと強くなれるよう頑張ります。

後藤 凜那



日本より恵まれていない環境の中で頑張っているエチオピアの選手に、とても刺激を受けました。今回の経験をを通して、もっと上を目指し、成長した姿を見せられるように頑張ります。

助川 颯都



出発前は不安でしたが、笑顔で受け入れてくれて安心して過ごしました。高地でのトレーニングはとても辛かったですが、今回学んだことを活かし、強くなった姿を見せて恩返しをしたい、もう一度エチオピアに行きたいと思いました。

エチオピアとの交流

「これまでも」「これから」

「これまで」ホストタウン交流として、東京国際マラソンを3回制し、エチオピアナショナルチームのコーチを務めたアベベ・メコネンさんが笠間市国際交流員として着任し、市内中学校で陸上競技の指導を行っています。

また、食文化の面でも市内小中学校の給食にエチオピア風の給食を提供するなど、つながりを深めています。

「これから」は、交流で生まれた絆を大切にしながら、ハーフマラソンなど関連事業の充実を図り、市民のスポーツへの参加機会をつくりだしていきたいと思っています。

問 スポーツ振興課
(内線391)